

# 世代内移動と主観的セカンド・チャンス

## ——東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（4）——

東京大学 石田賢示

### 1 目的

「日本は失敗が許されない社会だ」という言説が各種メディア上で散見され、キャリア移動の機会も議論の対象となる。失敗からの挽回が難しいという社会観が人々のキャリアを通じていかに生じるのかを、世代内移動の経路から説明することが本研究の目的である。社会移動と社会意識の関連に対する関心にもとづく研究はこれまでもあったが、典型的な世代内移動表に依拠する場合は無業の影響を等閑視せざるを得ない。また、個人間での観察不能な時間不変の異質性を統制した後でも地位やその移動と社会意識との関連がみられるのかについても検討が必要である。本研究では以上の問題意識をふまえ、日本社会におけるセカンド・チャンスの意識に対する世代内移動の影響について、パネルデータを用いて検証を試みる。

### 2 方法

分析に用いるのは東大社研パネル調査（JLPS）データである。主要な被説明変数は日本社会におけるセカンド・チャンスに対する評価であり、関連する2つの調査事項から合成変数を作成した。その値が高いほど失敗からの挽回の難しさに否定的、すなわちセカンド・チャンスに肯定的であることを意味する。主要な説明変数は各調査波現職の地位であり、現職はSSM総合分類を基本として区分している。世代内移動の経路は初職と現職の交互作用項により操作化する。その効果は到達した現職に対する、初職により異なる付加的効果を意味する。分析は男女別におこない、その他の時間可変のコントロール変数も含め、固定効果モデルにより世代内移動と主観的セカンド・チャンスの関連を検証する。

### 3 結果

世代内移動に関する複数のパターンを比較し、男女で異なる結果が得られた。男性については、自営・農業の地位の初職・現職間での再生産や無業への流入が、セカンド・チャンスへの否定的傾向と対応していた。一方、中小企業ノンマニュアル・マニュアルから自営・農業に流入する場合、セカンド・チャンスの評価が肯定的であった。女性については、大企業ノンマニュアルから中小ノンマニュアル、またノンマニュアルからマニュアルへの流入が、セカンド・チャンスの肯定的認識と対応していた。その他、男性では非正規雇用ダミー変数は負に有意な係数を示したが、女性では有意ではなかった。

### 4 結論

男性については階層的地位間での差異よりも就業の有無、雇用形態による差が明確であった。このことは、正規雇用労働者の長期雇用にもとづき社会移動の機会構造イメージが形成されている可能性を示唆している。一方、その前提が相対的に弛緩している中小被雇用者にとっては自営流入が肯定的な移動経路となっていると思われる。また、女性にとっては世代内移動の流動性がセカンド・チャンスの認識と関連していた。継続的なキャリアを前提としづらい女性にとっては、中小企業やマニュアル職が機会の受け皿となる社会的状況が存在していると解釈できる。

【謝辞】本研究は、日本学術振興会（JSPS）科学研究費補助金・特別推進研究（25000001, 18H05204）、基盤研究（S）（18103003, 22223005）の助成を受けたものである。東京大学社会科学研究所（東大社研）パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金、株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けた。パネル調査データの使用にあたっては東大社研パネル運営委員会の許可を受けた。